

20回目を迎えたエレクトロヒートシンポジウム

内山 洋司（うちやま ようじ）一般社団法人 日本エレクトロヒートセンター 会長

1. エレクトロヒートシンポジウムの経緯と第20回シンポジウムの開催

エレクトロヒートシンポジウムは、電気利用による加熱・冷却（エレクトロヒートシステム）の技術向上と普及拡大、さらに環境改善を通じた社会貢献を図るために、企業の方々に対して優れたエレクトロヒート技術の効用を広く発信することを目的としています。シンポジウムは、日本エレクトロヒートセンターの前身である日本電熱協会が1983年8月に発足してから毎年開催された「電熱大会」を起源としています。2006年4月に日本電熱協会は、日本エレクトロヒートセンターとして新たに発足したために、それを機会に「電熱大会」は「エレクトロヒートシンポジウム」に改称されました。

シンポジウムは毎年11月に開催され、第8回シンポジウムからは、エレクトロヒートの優れた技術・システムを社会に広く理解して頂くために、会員企業だけでなく一般企業の方々にも参加をオープンにしました。その結果、社会のエレクトロヒートへの期待の高まりもあり、来場者数は300名から400名、700名、900名と年々増え続けて来ました。

2020年からは、新型コロナウイルス感染症の影響で対面での開催が難しくなったために、第15回シンポジウムはWEBによる開催になりました。WEBによる開催は、対面のような臨場感は得られませんが、開催期間が長くでき、発表や展示の数が増やせる、また参加者が「何時でも」「何処でも」「何度でも」、自分の都合でアクセスできるといったメリットがあります。北海道や沖縄といった遠方の方々も時間や旅費をかけずに参加できます。WEBによるシンポジウムでは入場サイトを設けて、政府関係者らによる基調講演、特別講演、事例発表に分けて、すべてを「動画」を使って発信しました。また、入場サイト内の各エリアでは電気を使った高度な加熱・冷却技術、またそれに関連する様々なサービスを広く紹介しました。

新型コロナウイルス感染症の影響が和らいでも、WEBによるメリットを最大限生かすようコンテンツに工夫を凝らしました。参加者がスムーズに入場できる「ランディングページ」に工夫を加え、また、「会場マップ」については関心の高いテーマが選択し易くなるようにアクセス画面を改善しました。それにより、来場者は「会場マップ」から講演エリア、技術エリア、バーチャル展示エリアなどに自由にアクセスでき、基調講演や特別講演、それに電気を使った高度な加熱技術、また関連する様々なサービスについて最新情報を知ることができるようにしました。お陰で、参加登録者数は20年の初回が2,700名でしたが21年は3,600名と増え続けて、24年の第19回には5,643名の方々に来場していただきました。

第20回という節目を迎えた今回のシンポジウムでは、以下の点に力を入れて工夫しました。

① 開催期間の延長

WEB開催の特徴を生かし、来客が都合の良い日、あるいは時間に何時でも何度でもアクセスできるように開催期間を2025年10月20日～11月30日まで、例年より11日長い開催にしました。

② サイトの刷新

来客者にアクセスし易くするために、トップページにフリーワード検索機能を追加し情報検索を容易にしました。また、告知画面と同様の縦長スクロール形式に変更し、視認性の向上を図りました。

③ バーチャル展示の改善

異なる加熱技術とその特徴が分かりやすくするために統一感のあるデザインで、より見やすく、分かりやすい展示にしました。